

●編集・発行／東御市総務部企画課情報統計係 〒389-0592 長野県東御市東281-2
●TEL (64) 5806 FAX (63) 5431 E-mail shiho-tomi@city.tomi.nagano.jp
●東御市ホームページ http://www.city.tomi.nagano.jp/
●印刷／東鉄印刷 株式会社

絵は心の恋人探し その4

「競秀峰 羅漢寺」 青木 繁作

平成元年（1989）6月20日（火）読売新聞夕刊に、青木繁晩年の油絵発見——一枚板の表裏に風景、大分耶馬溪で描く天才画家放浪の足跡と題し、「競秀峰」「羅漢寺」の発見が報じられている。
発見されたのは縦27cm、横37cmの5号変形板の両面に描かれた岩山風景、厚さ6mmの板の小口に「競秀峰午後2時S、A」「〇園〇午後6時」（〇は判読困難）とのタイトルがあり、大分県の名勝、耶馬溪の競秀峰、羅漢寺付近の実景が描かれている。
同じ日の午前と午後、それぞれ現場で直接描いたものらしく、思い切りのよい筆触、そこに生まれる空気感、点景として添えられた人物の風情など、青木の特徴がよく現れている。
青木と同御の後輩で、戦前から青木研究を手がけてき



競秀峰 油絵、板 1907年 27×37cm



羅漢寺 油絵、板 1907年 27×37cm

青木 繁（あおきしげる）1882～1911

明治15年福岡県久留米市生。32年明善校を中退し上京。不同舎に入り、小山正太郎に師事。36年東京勸業博覧会でわだつみのいろこの宮（重文）が三等賞。41年九州を放浪する。44年3月25日福岡市で没。享年28歳。明治期の天才画家として知られる。

た美術評論家河北倫明さんは「一目で彼の作と分かるセンスがある。サインのS、Aなど誰も真似のできないものだ。青木の遺作はめつたに出ないが、間違いなく本当に久しぶりの本物」と太鼓判を押す。
絵は初め大分県日田市内の旅館にあったといわれ、友人の坂本繁一郎の手などを経て転々としたらしい。福岡県内から持ち込まれた絵を、青木の作と見抜いたのは、東京で美術研究所を主宰する梅野隆（63）。「青木の作といわれるものはすべて見てきたが、新発見などあり得ないと思っていた。目に見えぬ縁（えにし）を感じる。」という。（以上読売新聞より）
「この絵はその後、表と裏に切断され、2枚として現在当館に寄託品として常陳されています。」

（市報担当 柳橋）

編集後記

▼日本列島は記録的な酷暑となっております。7月20日では関東を中心に気温が上昇し、千葉県原市では40・2度を観測。東京都心でも39・5度を記録しました。その夜も30度を下回らない熱帯夜となり、観測史上最高気温と軒並み記録を更新しています。▼フェーン現象が原因と言われていますが、気象の変化やそれに伴う自然災害は自然の変化が原因ではないのでしょうか。日本が、地球が異常になつてきている一つの表れだと思えます。▼オオルリシジミの特集を取材し、自然がそして生物が私達の気付かない所でどんどん減少し、変化していることを実感しました。▼昨年の広報とうぶまち9月号ではイノシシが人里に現れることを取り上げました。自然界が変化していることの警鐘ではないかと。▼こうした土地開発をはじめ、人間達の利益追求のために自然を犠牲にしてきたことを反省し、見直さなければいけない時なのかもしれません。▼オオルリシジミを守る北御牧の取り組みは、実は自然を守ることにつながっています。▼自分達にできることは小さなことしかできませんが、こうした取り組みをはじめ、自然をもっと大切に守っていく行動を続けていかなければならないと痛切に感じました。

人の動き

（7月1日現在）

世帯数 10,929世帯(+13)
総人口 32,208人(+30)
男 15,863人(+17)
女 16,345人(+13)
転入 133人(+40)
転出 104人(+13)
出生 16人(-18)
死亡 16人(-16)
※カッコは6月対比